

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472201951	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 湘南ホームフレンド		
事業所名	ホームフレンド藤沢		
所在地	( 251-0861 ) 神奈川県藤沢市大庭 5448-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月3日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人の経営理念でもある「安心・安全・安定」の三つの安らぎを福祉と生活サービスを通じて地域に提供していきます。御入居者様には安心して過ごせる時間を提供していきます。安全に暮らせる場所を提供していきます。職員は御入居者様が安定した生活を送れる様、日々、精進していきます。

入居者様やご家族様と職員が々時間を共有し、共に考え、共に支え合い、温かいホームを築いて行きたいと考えております。

当たり前の事ですが、入居者様も、職員も、一人一人の個性を大切にし、今できる事を考え努力をし、「今」という時間を大切に公開の無いように々時を過ごして生きたいと思えます。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月20日	評価機関 評価決定日	令和6年2月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR東海道線「藤沢」駅から神奈中バスで「北の谷」バス停下車徒歩5分、またはJR東海道線「辻堂」駅より神奈中バスで「ライフタウン中央」バス停下車徒歩10分ほどの場所にあります。事業所の敷地は「北の谷公園」に隣接し、近くには「裏門公園」や広大な「大庭城址公園」がある閑静な住宅街に位置しています。

<優れている点>

入居者は、事業所裏の「北の谷公園」に散歩に行き、遊びに来ている保育園児と交流をしたり、近隣の神社へ初詣をしたり公園での盆踊り大会に参加をしたりするなど、古くからの住民が多く地域のつながりがある環境のなか、住民の一人として人々のぬくもりを感じながら生活をする事ができています。入居者との会話を大切に、笑い声が絶えることがない生活を心がけています。育児休暇中の職員が入居者に会わせるために赤ちゃんを連れて来るなど、家庭的な雰囲気の事業所です。

<工夫点>

業務効率をアップするため、手書きによる申し送りノートを廃止し、職員はグループウェア（業務やコミュニケーションを活性化させるために組織が用いるツール）を使用して連絡を取り合い記録に残しています。業務日誌はタブレット端末を利用してデータとして保存しています。食事のメニューは契約事業者が作成し、食材の供給をしていますが、各ユニットごとに食事担当の職員がメニューにとらわれることなくそれぞれのアイデアで調理をすることによって、変化のある食事の提供を心掛けています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ホームフレンド藤沢
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安心・安全・安定の三つの柱を中心にお一人お一人のご利用者様に寄り添うさを提供できる様、全職員と共有している。	3つの安らぎ=安心・安全・安定を地域に提供するという理念を実践するために、地域に必要とされる姿を目指す、挑戦を忘れず常に向上を目指す、良い時こそ見直しを実行する等の5つの具体的な行動指針を定めています。事業所内に掲示することで職員に周知を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染者の状況をみつつ、地域の催し（近隣自治体）に少しずつ参加をしている。公園愛護の会への参加に関しては今後、更に協議を重ねて行く予定。	事業所裏の「北の谷公園」に散歩に行き、遊びに来ている保育園児と交流をしています。古くからの住民が多く、近隣の神社への初詣や盆踊りへの参加を通じて、地域のつながりがある環境のもと、入居者が住民の一人として生活をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所へ地域の方を招く事はなかなか困難ではあり、運営推進会議の機会に民生委員の方等に認知症の方たちとの暮らしなどについてお話させて頂く程度。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員さんや地域包括のケアマネジャー三都の交流が出来る様になり、地域の様々な活動の情報を聞く事が出来ている。	入居者家族、民生委員、地域包括支援センター職員が参加をしています。会議終了後は、参加者と家族に対して事業所の運営状況や、情報意見などの議事録を配布して次回の運営会議の議案の参考とするための助言や意見を募っています。回答の回収率を高めるためにメールで受け取るようにしています。	町内会長等の地域住民の代表、市役所職員の運営会議への参加が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加もして頂けない状況で、どの様に協力関係を築けばよいのか分からない。	運営推進会議に藤沢市役所職員が参加をしていないため、介護保険の諸手続きや事故報告書の提出の際に市役所を訪問することで、行政と顔の見える関係を築くことができるように努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	月のユニット会議にて身体拘束についての委員会を行い、日々のケアの中で、事案がないか、拘束にあたる懸念は無いかと言った確認を行っている。また、動画での研修も必須として居る。	ユニット会議と同時に身体拘束適正化委員会を毎月開催し、身体拘束に該当する事例がなかったか、職員同士で話し合っています。事業所の管理者は、職員の入居者に対する声かけが語気が強く命令口調であると感じた場合は、その場で職員に注意をするなど、言葉のニュアンスに関しても気を配っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を行い、日々、虐待が見過ごされないよう注意を払っている。	虐待防止に関する研修を年に2回実施し、採用時にも身体拘束防止と併せて虐待防止に関する研修を実施しています。職員の業務上のストレスが虐待に繋がることのないようにベテランの職員が中心となって、職員が抱えている悩みを聞くように努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しても動画研修にて、学ぶ機会を設けている。現状、支援に当たる方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用開始の契約時に時間をかけご家族様に説明、ご納得頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望に関しては常時、受け付ける体制が出来ている。特別に時間を設けては居ない。	家族には定期的にSNSアプリや携帯電話のショートメールで入居者の様子を報告しています。家族から墓参りや外泊などの希望にも応えています。入居者から多く聞かれる食べ物に関する要望には、メニューを工夫したり、近くのコンビニエンスストアで購入し提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談や、隙間時間での職員との会話、聞き取りを行い反映させている	管理者と職員はグループウェアを使用して情報交換をしています。「整理整頓を徹底したい」などの意見は、すぐに採り入れています。「食材の野菜に冷凍ものが多いので改善したい」との提案は、管理者を通じて事業所運営会社に報告しています。	毎月開催しているユニット会議に加えて、事業所の全体会議を新たに開催することによって、職員が事業所全体の状況を把握し意見が言えるようにすることが期待されます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議にて整備の必要性や、職員の評価に関しての要望は上げている。	月に1回、事業所運営会社の総務部長と事業部長が事業所を巡回し、職員の要望を聴いています。年に2回、管理者が職員と個別面談を行って評価をし、給与に反映する仕組みがあります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	把握している。資格取得を積極的に進め、他研修等への補助金制度もある。法人内でも講師を招き研修会を行っている	資格取得に当たっては、勤務シフトを調整して講座を受講できるように配慮をしています。法人より受講費補助金支給を整備しています。勤務日以外に事業所の会議や研修に参加をする場合には手当を支給しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	業務に入る時間が多い為、外部の同業者との交流の機会はなかなか持てていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談時、入居後の日々の生活の中で不足があれば都度聞き取り出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始時から、少々の変化に関しても連絡を入れ、ご家族との関係を傷ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設で対応出来る最大限をお伝えし、不足な部分に関しては、ご家族様とより近い環境、サービスへ近づける努力はしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々のご利用者様が持つ残存機能を活かし、活躍の場や役割を提供している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活ぶりや困りごとなど、まっすぐにご家族様に伝え、ご本人の生活の質の向上に務めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染者の状況に応じ、出来る限り支援して居る。	家族と共に外泊をしたり「かかりつけ医」を受診したりすることができるように配慮をしています。「川柳」を詠むことが趣味の入居者に対しては、川柳雑誌への投稿を手伝うなど、趣味を継続することができるように支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	部屋に一人である時間も必要ではある為、適度にお声掛けをし、フロアでの活動に参加いただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	支援終了は亡くなられる方が大半なため、なかなか支援終了後の交流が持たない事が現実である。他のご家族様の入所相談等は時折ある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	有難うや良かったという言葉が聞かれる事を目安に、意思疎通が困難な方の以降や希望の把握に努めている。	意向や訴えはその時々動作や表情で察しています。「落ち着かない」「イスから頻繁に立ち上がる」などの動きがあればトイレに誘導しています。帰宅願望が強い時は原因を探り、状況に即した対応に努めています。職員が個々に知り得た情報はタブレット端末で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に聞き取った暮らしぶりを参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや記録等を利用し情報共有に努めている。また、連絡のツールとして各ユニットでグループLINEを作り、細かな情報も取りこぼさない様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議内でのモニタリングを行い、ケアマネージャー、現場職員の気付きを反映し計画作成をしている。	ユニット会議で課題を提起し、ニーズに対応した支援内容を検討しています。モニタリングを重ねながら長期目標は1年、短期目標は半年ごとに見直しています。「穏やかな日常生活」「出来ることの維持」などを念頭にケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に関しては大切なツールである事を職員に周知し、細かな気付きも積極的に記録に残すように指導し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様の状態の応じ、施設での対応が困難な状況になった際に、外部事業所との連携を図り、当施設での生活を継続出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域誌GWんの活用は現状出来ておらず、どの様に活用の機会を設ければよいのか手探りの状況である。地域包括の方からの情報は今後活かす事が出来そうではある。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診と、臨時での往診や、電話での相談等適切な医療を受けられる支援が出来ている。	4ヶ所の医療機関から、入居者は症状・状態によってかかりつけ医を選択しています。従前のかかりつけ医を継続している入居者もいます。容態に変化があれば管理者は医師に緊急対応を要請しています。本部職員の巡回看護師が定期巡回して必要な処置をしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期巡回にて看護師へ情報共有をし、必要な処置などアドバイスが受けられる環境が有る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換や相談、退院後の状態に関する相談も出来る関係作りを心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの段階になった時点で、往診医から家族へのムンテラ、看護、介護職員での情報共有を行い、説明は出来ている。	入居時に説明をし、重度化してきた段階で医師が家族に要望を聞き意向を確認しています。さらに医師が「看取り」と判断したら、家族、医師、看護師、職員で「看取り介護」について話し合っています。家族が寄り添い、家族が声掛けして看取るように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行えていない。急変時や事故発生時の手順はマニュアル化しており、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年課題として挙がっている。定期的な訓練がなかなか行えない事が現実で、会議内での口頭での確認程度。地域の防災訓練等の参加も行っていくタイト考えている。	ユニット会議の中で年2回、非常災害時の対応について話し、非常口・避難経路の確認をしています。敷地内の倉庫に保存水・食料品を3日分、非常用トイレ、毛布などの防災用品を備蓄し、リストを作成して管理・保管しています。	昼夜・地震/火災を想定した避難訓練を年2回実施し、防災への意識を高めることが期待されます。地域の防災訓練に参加し、地域との協力体制を築くことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。個々の人格、個性に合わせて声掛けのタイミング等を計っている。	一人ひとりの性格を見極めながら、不安や不快を感じない対応に努めています。入浴は希望により同性介助を行っています。トイレへの声掛けは小声で行っています。業務中職員間で話す時は、入居者の名前ではなく居室番号で伝えるなどプライバシーに配慮しています。家族了承の上、入居者の心地良い呼び名で声掛けをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話をする時間を大切にし、業務の手を止め傾聴、時には軽作業など共に行うなど働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースに合わせた生活スケジュールを意識し対応している。起床時間や、排泄介助等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性にはメイクやマニキュアと言ったおしゃれを楽しむ時間を提供し、衣類も相談しながら選んでいる。男性は髭剃りなどの身だしなみに気を配っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	レクリエーション活動として調理（ホットプレート）の準備などと一緒に。個々の能力に応じ、職員と共に昔を思い出して頂く機会を設けている。	メニューは業者に委託し、毎日食材の配達があります。炒め物や盛り付けなどに参加する入居者もいます。職員が味付けやアレンジを工夫して調理し、嚥下状態に合わせた食形態で提供しています。希望で寿司を取り入れたり、誕生会ではケーキやノンアルコールビールなどでお祝いをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態など、主治医や看護からの意見も取り入れ支援している。時に普段のメニューにはない物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的な歯科往診を依頼し、毎食後の口腔ケアも個々の能力に応じ、介助をさせて頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	意欲や意思に合わせて出来得る限り、トイレへ行っていただく様努めている。	トイレでの排泄を基本としています。日中は入居者の動きで察知したり、タブレット端末の記録で間隔を確認し、さりげなく誘導しています。夜間は睡眠を妨げないように、その人に合わせて1回程度声掛けし、オムツを使用している入居者のオムツ交換も1回程度にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	内服薬や寒天、オリゴ糖、ヨーグルト等を取り入れている。便秘薬も様々、医師や薬剤師と相談し調整している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のタイミングにはなっているが、無理強いせず、ご本人の意思に寄り添い対応している。浴後は皆さん「気持ちよかった」とさっぱりとしたお顔をされている。	週2回を目安に午前中入浴しています。入浴一覧表で前回の入浴を確認しながら声掛けや誘導をしています。入浴を嫌がる入居者には無理強いせず、毎日声掛けし浴室へ向かうように誘導しています。浴槽に浸かるのが無理な入居者にはシャワー浴で対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	表情や座位状態の変化に応じ、臥床休息の促しをしている。日中の活動量にも配慮し、夜間の安眠に繋げている。夜間おむつ交換が必要な方に対してはおむつ、パットの見直しを行い、交換時間を減らしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬事情報の共有をしている。細かな変化に対し情報共有をし医療との連携もとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩やメイク、カラオケなど、個々が楽しめる気分転換の支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や体調等、その日の希望に全て添う事は困難ではあるが、ご家族のご協力を得る形で、コロナ感染状況をみつつ、対応していきたい。	近隣の公園や神社までが散歩コースです。自然や平坦な道が多い恵まれた環境の中をのんびり歩いています。引地川沿いの親水公園へ花見を兼ねてドライブしています。コロナ禍では施設内で季節を感じる催しをしたり、季節の歌を歌うなど入居者の気分転換になるような工夫をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持は認知症の方々な為、控えて頂いている。欲しい物などはご家族にお願いしたり、許可を得た上で、職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば支援出来る。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来ている。壁面飾りやカレンダーを設置し、季節感を取り入れている。音や光、室温に関しても配慮している。	日中ほとんどの入居者がリビングで過ごしています。壁には季節の作品を飾り、寛げるようにソファを設置しています。カウンター式キッチンでは職員が料理しながら言葉掛けや安全確認をして支援しています。1階のウッドデッキはお茶や外気浴の場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性等を配慮し、居場所作りをしている。基本的に皆さん共用空間で過ごされる方が多い。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身の馴染みの家具などを持参下さるように入居時にご家族をお願いをしている。ご家族の写真などを飾らせて頂いている。	居室入口には自分の部屋だと分かりやすい個々のデザイン画の表札を掲示しています。転倒防止のために離床センサー、センサーマットを設置している居室もあります。各居室に濡れタオルを吊るして加湿もし乾燥を防ぐ工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレやお風呂には見やすい高さに表示をし、安全に配慮している。		

事業所名	ホームフレンド藤沢
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安心・安全・安定の三つの柱を中心にお一人お一人のご利用者様に寄り添うさを提供できる様、全職員と共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染者の状況をみつつ、地域の催し（近隣自治体）に少しずつ参加をしている。公園愛護の会への参加に関しては今後、更に協議を重ねて行く予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所へ地域の方を招く事はなかなか困難ではあり、運営推進会議の機会に民生委員の方等に認知症の方たちとの暮らしなどについてお話させて頂く程度。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員さんや地域包括のケアマネジャー三都の交流が出来る様になり、地域の様々な活動の情報を聞く事が出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議への参加もして頂けない状況で、どの様に協力関係を築けばよいのか分からない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	月のユニット会議にて身体拘束についての委員会を行い、日々のケアの中で、事案がないか、拘束にあたる懸念は無いかと言った確認を行っている。また、動画での研修も必須として居る。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を行い、日々、虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しても動画研修にて、学ぶ機会を設けている。現状、支援に当たる方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用開始の契約時に時間をかけご家族様に説明、ご納得頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望に関しては常時、受け付ける体制が出来ている。特別に時間を設けては居ない。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談や、隙間時間での職員との会話、聞き取りを行い反映させている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議にて整備の必要性や、職員の評価についての要望は上げている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	把握している。資格取得を積極的に進め、他研修等への補助金制度もある。法人内でも講師を招き研修会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	業務に入る時間が多い為、外部の同業者との交流の機会はなかなか持っていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談時、入居後の日々の生活の中で不足があれば都度聞き取り出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始時から、少々の変化に関しても連絡を入れ、ご家族との関係を傷ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設で対応出来る最大限をお伝えし、不足な部分に関しては、ご家族様とより近い環境、サービスへ近づける努力はしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々のご利用者様が持つ残存機能を活かし、活躍の場や役割を提供している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活ぶりや困りごとなど、まっすぐにご家族様に伝え、ご本人の生活の質の向上に務めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染者の状況に応じ、出来る限り支援して居る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	部屋に一人である時間も必要ではある為、適度にお声掛けをし、フロアでの活動に参加いただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	支援修了は亡くなられる方が大半なため、なかなか支援終了後の交流が持てない事が現実である。他のご家族様の入所相談等は時折ある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	有難うや良かったという言葉が聞かれる事を目安に、意思疎通が困難な方の以降や希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に聞き取った暮らしぶりを参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや記録等を利用し情報共有に努めている。また、連絡のツールとして各ユニットでグループLINEを作り、細かな情報も取りこぼさない様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議内でのモニタリングを行い、ケアマネージャー、現場職員の気付きを反映し計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に関しては大切なツールである事を職員に周知し、細かな気付きも積極的に記録に残すように指導し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様の状態の応じ、施設での対応が困難な状況になった際に、外部事業所との連携を図り、当施設での生活を継続出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域誌GWんの活用は現状出来ておらず、どの様に活用の機会を設ければよいのか手探りな状況である。地域包括の方からの情報は今後活かす事が出来そうではある。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診と、臨時での往診や、電話での相談等適切な医療を受けられる支援が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期巡回にて看護師へ情報共有をし、必要な処置などアドバイスが受けられる環境が有る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換や相談、退院後の状態に関する相談も出来る関係作りを心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの段階になった時点で、往診医から家族へのムンテラ、看護、介護職員での情報共有を行い、説明は出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行っていない。急変時や事故発生時の手順はマニュアル化しており、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年課題として挙げている。定期的な訓練がなかなか行えない事が現実で、会議内での口頭での確認程度。地域の防災訓練等の参加も行っていきタイト考えてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。個々の人格、個性に合わせて声掛けのタイミング等を計っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話をする時間を大切にし、業務の手を止め傾聴、時には軽作業など共に行うなど働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースに合わせた生活スケジュールを意識し対応している。起床時間や、排泄介助等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性にはメイクやマニキュアと言ったおしゃれを楽しむ時間を提供し、衣類も相談しながら選んでいる。男性は髭剃りなどの身だしなみに気を配っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	レクリエーション活動として調理（ホットプレート）の準備などを一緒に行う。個々の能力に応じ、職員と共に昔を思い出して頂く機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態など、主治医や看護からの意見も取り入れ支援している。時に普段のメニューにはない物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的な歯科往診を依頼し、毎食後の口腔ケアも個々の能力に応じ、介助をさせて頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	意欲や意思に合わせ出来得る限り、トイレへ行っていただく様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	内服薬や寒天、オリゴ糖、ヨーグルト等を取り入れている。便秘薬も様々、医師や薬剤師と相談し調整している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のタイミングにはなっているが、無理強いせず、ご本人の意思に寄り添い対応している。浴後は皆さん「気持ちよかった」とさっぱりとしたお顔をされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	表情や座位状態の変化に応じ、臥床休息の促しをしている。日中の活動量にも配慮し、夜間の安眠に繋げている。夜間おむつ交換が必要な方に対してはおむつ、パットの見直しを行い、交換時間を減らしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報の共有をしている。細かな変化に対し情報共有をし医療との連携もとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩やメイク、カラオケなど、個々が楽しめる気分転換の支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や体調等、その日の希望に全て添う事は困難ではあるが、ご家族のご協力を得る形で、コロナ感染状況をみつづ、対応していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持は認知症の方々な為、控えて頂いている。欲しい物などはご家族にお願いしたり、許可を得た上で、職員が購入している。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば支援出来る。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来ている。壁面飾りやカレンダーを設置し、季節感を取り入れている。音や光、室温に関しても配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性等を配慮し、居場所作りをしている。基本的に皆さん共用空間で過ごされる方が多い。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身の馴染みの家具などを持参下さるように入居時にご家族をお願いをしている。ご家族の写真などを飾らせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレやお風呂には見やすい高さに表示をし、安全に配慮している。		

2023年度

事業所名 ホームフレンド藤沢

作成日：2024年2月26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	災害対策 ユニット会議内での経路確認等で終わらせてしまっている。消防署への届け出に関しても、勤務時間内での対応が困難となっている。	現場へ入る時間をもう少し減らせるように人員の確保と共に、日中、夜間の訓練計画の元実施する。	年間の計画表を作成し、事前に消防署へも報告書提出、実施出来るようシフトを組む。	3ヶ月
2	3	運営推進会議を活かした取り組み 地域包括、民生委員様は積極的に参加下さっている。ご家族様、市役所の担当者様の参加が頂けない、	ご家族様、市役所担当者様にも参加頂き、ご意見を頂く貴重な時間を有効活用したい。	ご家族様へは毎月のお手紙で通知、お願いをする。市役所ご担当者様へは開催月にお電話にて参加の依頼をしていく。	6ヶ月
3	8	運営に関する職員意見の反映 ユニット会議での話し合いだけでは時間が足りず聞き取りが困難。	職員からの意見を吸い上げ、本社へ意見提出や、現場のより良い改善が出来るようにする。	定期的に本社部長の会議出席を依頼し、現場の問題点などを理解頂き、環境の改善や人員配置の促進をお願いしていく。	ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月